

令和4年度 五百石地区町政懇談会

開催日時 令和4年6月21日（火）午後7時～午後8時

開催場所 五百石公民館

出席者 立山町 舟橋町長、酒井副町長、杉田教育長、清水総務課長、
安川建設課長、瀬本美しいまちづくり推進室長、青木教育課長、
林商工観光課長、野田農林課長、成瀬住民課長、
中川美しいまちづくり推進室長補佐
地元議員 内山議員、堀田議員
五百石地区振興会 廣明会長
企画政策課 山田課長、高田課長補佐、松本主任、牧田主任、橘主事、高塚主事
参加者数 54名（うち町職員9名）

1 挨拶

町長挨拶

2 懇談会

（1）町からのお知らせ

- ①(仮称)防災センター及び児童館整備事業について（美しいまちづくり推進室から説明）
- ②旧えんじ屋事務所ビルの解体と跡地整備について（建設課から説明）
- ③電子地域通貨たてぽ事業（添付資料）について（司会から説明）

（2）質疑応答

- **（仮称）防災センター・児童館について、太陽光パネル設置に至った経緯を知りたい。太陽光パネル設置に関する費用体効果の試算は出ているのか。**

（美しいまちづくり推進室長）

（仮称）防災センター・児童館について、設計の段階では屋根の上に352枚のパネルを載せる予定。発電量は約140kWを想定している。太陽光発電と商用電源を併用することを想定しているが、この施設の省エネ性能と太陽光パネルの“創エネ”により、施設のエネルギー使用量を75%削減できる試算。これにより、環境省の「ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）」、その中でも「Nearly ZEB」の認証を受けることができ、環境省事業の補助金対象となる。このため、太陽光パネル設置を検討している。

また、今の時代「環境にやさしい」ということが非常に重要であると考えており、その啓発的な建物とするためにも、太陽光パネルの設置を検討している。

- **太陽光パネル設置のための建設費用に対して、75%の削減効果や償却・更新の費用などを含め、どういう試算をしているのか。**

（町長）

細かいデータについては、改めて区長に資料としてお渡ししたい。

太陽光パネル設置の背景には、以下のようなことがある。1つ目、いま国では、各自治体で作る公共施設には太陽光パネル・蓄電池等を設置するという方針が定められようとしている。このため、各学校にも太陽光パネル・蓄電池を設置している。2つ目、この補助制度によって、太陽光パネル・蓄電池に対して3分の2程度の補助が見込まれる。町民負担のことを考えると、補助を受けられるということは重要。

- 2階吹き抜け部分はなにか意味があるのか。ネット遊具があるが、子どもたちはわざわざここへ上がって遊ぶことになるのか。

(美しいまちづくり推進室 中川室長補佐)

2階吹き抜けは特別に作ったものではない。

この建物は、今の町民会館のホールの代わりとなる、350席程度のホールを整備することが大前提としてあった。多目的ホールの天井高さは最低限6メートル必要で、一般的な建物よりも天井が高くなる。その上部の空間を有効活用するために、ギャラリーやロフトを設けている。児童館という面からも、その部分を子どもたちが楽しめる空間にしたいと考え、ネット遊具の設置を検討している。

- (仮称)防災センター・児童館はそもそも必要なのか。町民会館の大ホールは選挙演説くらいにしか使用していないので、その代わりとして新しく建てたとしても、使用方法・意図が分からない。また児童館についても、みらいぶで十分ではないか。

(仮称)防災センター・児童館ではなく新庁舎を建てるほうがよいのではないか。

(町長)

(仮称)防災センター・児童館の多目的ホールの座席は収納可能であり、小規模の体育館のようになる。耐震性のない旧勤労者体育館の解体や、子育て支援センターの老朽化に伴い、こういった施設を集約し、将来の世代に負担をかけない、行政改革の施設であると考えている。

(仮称)防災センター・児童館の建設の必要性について疑問を持つ方も多くいる可能性がある。今後も様々な機会に案内していきたい。

(2) 五百石地区協議事項

(廣明振興会長)

①公共施設の再編成について

(美しいまちづくり推進室長)

令和2年度、町中心施設の集約・再編成を定めた立山町中心部公共施設再配置計画を策定した。この計画において、役場庁舎と五百石公民館の建て替えについては、令和8年度から12年度までの期間で建て替え予定としている。

新しい五百石公民館の配置については、既存場所での建て替えを基本としているが、現在の立地状況や利用状態、地区の実情等を考慮し、適切な場所や規模について今後検討予定。

②五百石駅周辺の活性化について

(商工観光課長)

五百石駅周辺の活性化に繋がる町の事業について、たてポの加盟店を増やす方策について、以上2点について回答する。

五百石商店街については、空き店舗・空き家が目立ち、町の中心市街地としての活力が弱まっている状況。そこで町では、本年度から3年かけて、五百石駅周辺の再設計事業に取り組むこととしている。この事業は、五百石駅周辺での起業支援やイベント開催等による町内外の方々の交流促進、宿泊施設の誘致、また五百石駅から地鉄を利用し、立山黒部アルペンルートや上東エリアへ向かう観光客の増加に取り組むもの。飲食店をはじめとする小売店舗が増え、五百石駅周辺エリアに町内外から人が訪れることで活気が戻り、さらには、地域内の経済循環や雇用が創出されることを目指している。さらに、様々な店舗が

増えることで、高齢者をはじめとする車を運転できない町民の方々にとっても、五百石駅まで来れば、行政手続や銀行、受診に合わせ、日用品等の購入などまで徒歩で済ませられるような環境になればと考えている。

続いて、たてポについて。たてポとは、町内でのみ使える電子地域通貨で、町内の加盟店でお買い物をされた際にポイントがたまるもの。会員数は、令和4年3月末時点で7,716人。昨年度より2,119人増加。また加盟店舗数も昨年度より20店舗増え、72店舗となっている。資料7ページは5月末現在の店舗数で、現在までに1店舗増え、73店舗となっている。その構成としては、皆さんが日頃利用される割合が高い飲食店や食品の小売店舗は、72店舗中26店舗と、全体の4割弱となっている。あとは衣料品や家具、家電の小売り、また山荘やタクシー、建設事業者となっている。

町では、お買い物ポイントのほかに、町からの補助金としてポイントで支援をする事業もしているので、そちらの方もご利用いただきたい。

さらに7月23日から、たてポ20倍キャンペーンを実施する予定としている。加盟店の皆様にとっても売り上げの向上に繋がるよう、PRさせていただきながら、加盟店の増加に努めたい。

③新型コロナウイルスに対応した避難所開設について

(総務課長)

指定避難所における新型コロナウイルス蔓延防止対策については、マスクの着用、手指の消毒、体温管理など、基本的な対策を徹底することに加え、避難者同士が密にならないよう、スペースを確保することが必要。そこで、例えば学校では、従来は体育館のみ開放を検討していたが、普通教室や特別教室なども合わせて開放することで、避難空間を確保し、各家族単位の区割りの間隔を2メートル程度確保するように対応していきたいと考えている。

次に洪水ハザードマップについて、全戸配布のためご覧いただいているかと思うが、令和2年に立山町・舟橋村の洪水ハザードマップを改訂し、浸水危険区域がくっきりと分かるようになった。特にご覧いただきたいのは、五百石地区は比較的浸水の被害が想定されにくい場所となっているということ。しかし、大森、利田、高野などが浸水の危険性があるとされている。したがって、もし洪水が発生した場合、隣接の区域から五百石地区の避難所へ避難して来られることが想定される。令和2年度のハザードマップ改定で付け加えた部分で、浸水の危険性が高いとされる区域の中でも、建物の二階以上に避難できる、つまり垂直避難ができる、そういった施設を明示した。垂直避難可能な施設を加えたとしても、スペースは限られているので、五百石に避難して来られることが想定される。そこで、ハザードマップにおいて五百石は白地地域という比較的危険性が低いところであるので、大雨が降った場合、できれば自宅で安全確保していただき、ご自宅で避難していただくことをお願いしたい。避難所については、民間の企業の協力を得て、その会社の社屋や事業所等の施設を指定避難所とするなど、今後も避難所の確保に努めていく。

(3) 自由意見

● (仮称)防災センター・児童館について、防災センターとしての使用方法の説明がない。

(町長)

現在大雪が予想された場合、役場職員は下前沢の水防倉庫に待機し、寝泊まりしながら除雪要請を行っている。本来であれば役場庁舎に待機できればよいが、その機能が現在庁舎にはない。この施設に待機できるようにすることで、防災の拠点・司令塔としたいと考えている。

(美しいまちづくり推進室長)

(仮称)防災センター・児童館の多目的ホールは、椅子・ステージを収納すると小規模の体育館のような施設になる。災害時には、一時的にここに200人程度収容できる。プライベートスペースを確保する避難所の形にすると、この中で約50区画確保できる想定。児童館のスペースは、配慮が必要な方向への福祉避難所のような形で使用できると考えている。

- ①町道の補修について、以前町へ要望したが、まだ達成されていない。天満宮から五百石5区にかけての町道。昨年、城戸理髪店から4区の一部が補修されたが、それ以外いつになったらやってもらえるのか。現在地割れしているところに草が生え、それを掘り起こすことは難しく、困っている。
- ②五百石の用水路にかけられている鉄蓋が大変重く、蓋を開けるのが困難である。昨年12月31日のような火災時に蓋を開けるのが難しいことや、また五百石3区は世帯数が減少しており、限界集落に近い形になっている中、用水路の蓋の軽量化は早急に実行していただきたい。
これらが我々の一番身近な問題であり、これらが解決しない中、町への不信感が強まるばかりである。
また、役場職員は町の中を歩いて回ってほしい。

(建設課長)

- ①道路の補修について、昨年城戸理髪店から200メートルほど東側の車線を補修した。今年度は、村上燃料店から中島製麺あたりの区間の補修工事を発注した。そろそろ工事準備に取り掛かることができると考えている。旧県道については延長が非常に長いので1年ですべては実施できないが、他補修が必要である部分についても順次、早い時期に完成できるように毎年進めていく。
- ②蓋の件について、各区長さんからの要望があり、数年前から少しずつ蓋の取り換えを実施している。今年度も予算確保してあるので、具体的にどこの蓋を早急に取り換える必要があるのか、担当から個別に相談したい。本当であれば一度に実施できれば良いのだが、町内から寄せられる多数の要望にバランスよく対応しているので、ご理解いただきたい。

- なぜ、一番傷んでいる城戸理髪店の交差点の補修がされなかったのか。町の中を歩いている証拠だ。どこがどう傷んでいるのか、道路地図を持ってチェックしてほしい。

(建設課長)

ご意見を受け止め、現場を確認していきたい。

- たてポ20倍キャンペーンについて、なぜ6月補正だったのか。当初予算ではできなかったのか。

(商工観光課長)

7月からのたてポ20倍キャンペーンの予算については、国からの新型コロナウイルス関係の経済対策に関するお金をもとに6月補正を行った。昨年度は、前述と同様のものと、商工会に補助いただいたものを合わせて、たてポ20倍キャンペーンを2回実施した。昨年度2回目として実施したものは3月末に予算が尽き、終了した。

6月補正で行ったのは、新型コロナウイルスの感染状況や町の経済対策の動向等総合的に勘案し、当初では見送ったという背景がある。

(町長)

県議会や他市町村でも6月議会で同様の予算が出ている。現状の燃料の値上がり等を踏

まえ、経済対策が必要と判断した国が、今年度に入ってから、市町村に対し経済対策のための補助金の金額を提示した。これを受けたため、当初予算ではできなかった。

● 先日、(仮称)防災センター・児童館の「みんなでつくるワークショップ 外構編」に参加した。

①(仮称)防災センター・児童館と前沢中央公園とのアクセスを、もう少しスムーズにできないか。(仮称)防災センター・児童館の南側には広場があり、もう少し上がるとまた広場がある。ここと前沢中央公園とのアクセスが良くなれば、有効に区分けした使用方法が検討できると思う。

②ウエルシアと防災協定を結ぶのはどうか。

③旧勤労者体育館を使用している。現状様々な競技の方が使用されているが、解体するというので、その代用施設について確認したい。

(町長)

①前沢中央公園と今の町民会館・役場とのアクセスが悪いのは、おっしゃる通りだと思う。ウエルシアも含め、民間の方の土地があることが関係している。

②現在町はコメリと防災協定を結んでいる。ウエルシアについても検討したい。

③旧勤労者体育館を利用されている方々の問題については、6月議会で堀田議員から一般質問があった。昭和40年代前半にできた旧勤労者体育館は、床は綺麗そうに見えるが、耐震性はないので、早急に解体したいと考えている。雄山中学校の子どもたちの部活動は、下段に友情館を作り、そこでしてもらうようにしている。代用施設としては、町営体育館である旧日中上野小学校の体育館を使用いただくか、少し広くした高野小学校の体育館を学校の使用と調整しつつ使用していただきたい。(仮称)防災センター・児童館の多目的ホールについては、小学校の小規模の体育館ほどの大きさがあるので、年配の方々が体操するのに使用していただけるイメージである。現在フレッシュテニス等の様々な競技で旧勤労者体育館が使用されていると思うが、個別に教育委員会と協議・調整させていただき、なるべく不便が無いようにしたい。

● まちなかファームや富山信用金庫がある交差点について、歩道の除雪がされていない。昨年、歩行者が車道を歩いており危険だったため、地区の住民でこの歩道を除雪した。役場の方から、この歩道部分についても除雪を実施してもらえようと言ってほしい。

(建設課長)

県道側は県が除雪担当、町道側は町が除雪担当をしている。連携を取り、冬場の歩行空間の確保に努めたい。

● ①中学校の部活動の外部講師移行について、外部講師に対する補助金等を町で検討していることはあるか。

②補習授業に富山大学の生徒が講師として来ているということも聞いているが、そういったことに対する補助金や予算は検討されているのか。立山町は他市町村と比較して教育に特化した独自の取り組みをしている印象があり非常に期待している。

(教育長)

①部活動の外部指導者について、スポーツ庁から提言という形で発出された。令和5年度から3年間で地域の方に移行する、という内容。一方プラスバンド部等の文化庁管轄の部活動については、来月7月に提言をまとめると聞いている。こういった提言を受け、文部科学省から秋以降、通知が出ると思っている。雄山中学校では、外部指導者が1人だったのを昨年2人に増やし、本年度はさらに1人増やし、現在3人、バドミントン、

バレーボール、ソフトテニスの部活動に協力いただいている。外部指導者への謝礼等は現状、国、県、町が3分の1ずつ負担している。今後の国からの支援等はまだ不明のため、国の通知や他市町村の動向を見ながら検討していきたい。地域のスポーツ協会やスポーツクラブの協力を得るといふ話もよく出てはいるが、どこの市町村でも人材確保に関して問題がある状況。

- ②補習授業については、これまで放課後の学習教室や受験生対象の冬季土曜教室等を実施している。今後町教育センターから富山大学等に協力要請し、学生に放課後教室や土曜教室に来てもらおうと考えている。

3 閉会

内山議員、堀田議員 挨拶

終了